



## 第7回核融合エネルギー連合講演会 —核融合は地球を救えるか— 一般講演（ポスター発表）募集

拝啓

核融合エネルギー連合講演会は、炉心プラズマ・炉工学を始めとする広範な関連研究分野の成果を検証し、併せて今後の研究の進め方、基礎科学への寄与、技術的波及などに関しても幅広く議論を展開する貴重な機会として、我が国の核融合研究の進展に重要な役割を果たして参りました。時恰も2008年は、仏国カダラッシュにITERの、我が青森県六ヶ所村にはそのITERの成果を原型炉の実現に繋げる「幅広いアプローチ」の関連施設の建設がそれぞれ始まる、言わば核融合研究史上の節目の年になります。今般、(社)日本原子力学会と(社)プラズマ・核融合学会は、同講演会の第7回目を、その「幅広いアプローチ」の実施サイトとなる青森県で開催することになりました。

同講演会は、研究の必要性や開発の現状に関する情報を広く世に発信して国民各層のご理解を頂戴するという大切な役割も担っております。エネルギー資源枯渇の懸念も地球環境悪化の不安もまだ人々の口の端にのぼらぬ頃、核融合は「夢の一つ」であることを許されていましたが、今やその「至福の時」は過去のものとなりました。エネルギー・環境問題が抜き差しならぬ現実の国際政治課題となった今、制御された核融合エネルギーを人類社会に提供するという研究者の使命は、文明史的な重みを持つに至ったと形容して過言ではありません。そのことを強く意識して今回は、基調テーマ「核融合は地球を救えるか」を掲げております。

開催の前後には、6月前半に青森市でG8エネルギー大臣会合が、7月9、10両日には津軽海峡を挟む北海道洞爺湖畔で主要国首脳会議がそれぞれ開かれて、世界の耳目がこの地に注がれます。今回は開催期間もとくに3日間に設定し、日本のエネルギー中核基地に成長しつつある六ヶ所村の諸施設見学会、一般の方々を対象とした講演会、地元の高校生諸君への出前講義などの多彩な企画を進めております。一人でも多くの方々のご参加を得て、学術の進展と国民各層のご理解をともに深める絶好の機会としたいと念じております。

下記に従って、奮ってご参加下さい。

敬具

組織委員長 清水昭比古（九州大学）

1. 会期：2008年6月19日(木)～21日(土)

2. 会場：青森市民ホール（青森市柳川1丁目2番14号）

<http://nebuta.city.aomori.aomori.jp/koho/ksi/mp190.html>

青森市男女共同参画プラザ AV 多機能ホール（青森市新町1丁目3番7号アウガ5F）

<http://www.city.aomori.aomori.jp/koho/ksi/mp155.html>

3. 一般講演申込期限

ウェブによる受付締切：2008年3月14日(金)まで

- ・できるだけWebによる申し込みをお願いします。
- ・ウェブでの申し込みはこの時間を過ぎますとアクセスできなくなりますのでご注意ください。
- ・ウェブ登録が受け付けられると、受付番号を記載した電子メールが連絡代表者に送られます。
- ・発表の可否、講演番号は4月初めまでに電子メールでお知らせします。
- ・どうしてもウェブからのお申込みができない場合は、講演会事務局までご連絡ください。

4. 講演予稿原稿：ウェブによる提出をお願いします。  
ウェブによる予稿提出締切：2008年4月25日(金)まで

5. ポストデッドライン講演

講演会直前に、有意義でかつ緊急に発表する価値があると認められる結果が得られた場合には、6月13日(金)までに講演会事務局に所定の内容(ウェブをご参照ください)をメール送信してください。プログラム委員会で申し込み内容を審査し、6月16日(月)までに採択結果を通知いたします。

6. 一般講演の資格

主催学会ならびに下記共催学協会\*の会員（海外の学術団体に関しては同等に取り扱います。）

〈共催学協会〉

エネルギー・資源学会、応用物理学会、高温学会、低温工学協会、電気学会、日本加速器学会、日本機械学会、日本金属学会、日本真空協会、日本赤外線学会、日本地球化学会、日本鉄鋼協会、日本物理学会、日本放射化学会、日本放射線影響学会、日本保健物理学会、腐食防食協会、放電

学会, 溶接学会, レーザー学会, IEEE Japan Council (\*依頼中を含みます)

## 7. 一般講演の制限

講演の代表者として1人1件に限ります。

## 8. 一般講演の形式

ポスター発表になります。(英語での発表も可能です)

## 9. 講演募集分野

連合講演会の趣旨に沿ったもので、以下に記す分野において最近行われた研究の紹介、トピックスのミニレビューなど、学術的に価値のあるものに限ります。

一般講演募集分野：A) 炉心プラズマ (磁場), B) 炉心プラズマ (慣性, ドライバー), C) 加熱・電流駆動, D) プラズマ計測, E) 核融合工学 (超伝導, 第一壁), F) 炉材料, G) トリチウム・ブランケット, H) 炉システム設計, I) プラズマ基礎・応用, J) 理論・シミュレーション, K) その他関連研究

## 10. 一般講演申し込み方法

下記のウェブサイトの注意書きをご覧ください、ウェブサイト内のオンライン申し込みページからご登録ください。なお、ウェブ申し込みを利用できない場合は郵送でも受け付けます。講演申し込み用紙をウェブサイトからダウンロードするか、もしくは講演会事務局までご請求下さい。

\*オンライン申し込みウェブサイト

<http://phase.ence.kyushu-u.ac.jp/rengo7/index.html>

## 11. 講演予稿原稿

### 11.1 原稿の書き方

講演原稿を下記の要領で作成してください。(もしくはウェブサイトをご覧ください。原稿見本およびテンプレートを用意しています。)

- ・一般講演の予稿原稿は、A4横長サイズ用紙に上下左右各15mmの余白をおいて作成してください。この原稿を1/2に縮小して予稿集を作成いたします。(一講演あたり1/2頁のできあがりになります)
- ・枠内左上隅の指定位置にプログラム委員会から通知された講演番号を記入してください。
- ・和文、英文を問いません。
- ・講演題目は中央揃えにして一行目から書いてください。また、予稿原稿の講演題目は、講演申し込み時のものと同一にしてください。
- ・和文の場合、講演題目の下に和文で著者名および所属略称、その下に英文で著者名・所属名・電子メールアドレスを書いてください。1行以上の空行をおいた上で本文を書き出してください。

- ・著者が多い場合、英文著者名の記載を5名程度とし、後には*et al.*にしてもかまいません。
- ・本文には研究の目的、方法、結果、結論を記載してください。
- ・図および表はカラー印刷できません。

### 11.2 講演予稿原稿の送付

- ・予稿原稿をPDFファイル化したものをオンライン受付いたします。できるだけウェブでのご送付をお願いします。
- ・予稿原稿を紙で送付される場合は、講演会事務局宛に郵送願います。

## 12. 参加費

参加費(予稿集代を含む)を徴収いたします。主催学会ならびに共催学協会の正会員は6,000円、学生会員は3,000円です。ただし、非会員7,000円、および学生非会員は3,500円です。

また、一般の方の公開講演会、招待講演および特別講演の聴講は無料です。

## 13. テクニカルツアー

6月20日(金)に六ヶ所村へのバスツアーを企画します。ITER-BAサイト視察、日本原燃再処理工場、その他エネルギー関連施設の見学を予定しています。参加費は無料です。昼食代ののみいただきます。詳しくはウェブをご覧ください。

## 14. 懇親会

講演会中日(6月19日(木))の夕刻、青森グランドホテル(青森市新町1丁目1-23、講演会会場から徒歩5分)にて懇親会を予定しておりますので、お誘い合わせの上、ご参加くださいますようご案内申し上げます。詳しい情報はウェブをご覧ください。

## 15. 事前振込

講演会参加費、懇親会費は事前に指定口座に振り込んでください。口座名等はウェブでお知らせいたします。

## 15. 連絡先

第7回核融合エネルギー連合講演会事務局  
〒816-8580  
九州大学大学院総合理工学研究院  
エネルギー理工学部門 横峯健彦  
[rengo7@ence.kyushu-u.ac.jp](mailto:rengo7@ence.kyushu-u.ac.jp)

\*最新の情報はウェブにてご確認ください。

<http://phase.ence.kyushu-u.ac.jp/rengo7/index.html>